

シラバス (授業計画)

授業科目名	開講学年	必・選	単位数	担当教員名
税法学特論Ⅱ (所得税法)	1・2年生	選択	2単位	平山 誠一郎
<p>授業の到達目標及びテーマ 所得税法の法令の条文を読解でき、具体的事例に適用できる能力を身に付ける。 所得税法の体系的知識を習得する。</p>				
<p>授業の概要 授業の進め方は、研究生が司会班、説明・回答班、質問班の3班に分かれて討議を行う方式による。 そのため、講義範囲のテキストを事前に熟読し理解しておくことが不可欠である。 討議の内容や理解度に応じて、教授が質問・解説を行う。</p>				
<p>授業計画</p> <p>第1回 総説 (所得税の意義、所得の意義・概念、所得税の種類、課税単位)</p> <p>第2回 所得税制度の基本的仕組 (納税義務者、課税標準)</p> <p>第3回 各種所得の意義と範囲 (不動産所得、事業所得)</p> <p>第4回 各種所得の意義と範囲 (給与所得、退職所得)</p> <p>第5回 各種所得の意義と範囲 (山林所得、譲渡所得①)</p> <p>第6回 各種所得の意義と範囲 (譲渡所得②)</p> <p>第7回 各種所得の意義と範囲 (利子所得、配当所得、一時所得、雑所得)</p> <p>第8回 所得計算の通則 (収入金額)</p> <p>第9回 所得計算の通則 (必要経費① (総説～売上原価))</p> <p>第10回 所得金額の通則 (必要経費② (販管費～所得金額の計算の特例))</p> <p>第11回 課税標準の計算 (所得金額の総合、損益通算、損失の繰越控除)</p> <p>第12回 所得控除、税額の計算</p> <p>第13回 源泉徴収制度、非居住者及び法人の納税義務</p> <p>第14回 申告、納付及び還付</p> <p>第15回 まとめ</p>				
<p>履修上の留意点、準備学習等 (事前・事後学習)</p> <p>簿記・会計の知識が不可欠である。 税法の読み方の基本を、伊藤義一『税法の読み方判例の見方 [改訂第3版]』(TKC出版)によりマスターしておくこと。 授業範囲の税法・テキストを読解しておくこと。 各回、少なくとも、2時間程度の事前学習、2時間程度の事後学習が必要である。 特に、授業等で十分理解できなかった点は、事後学習で理解を深めること。</p>				
<p>テキスト</p> <p>『実務 税法六法 (法令編・通達編) [令和3年版]』(新日本法規出版)、金子宏『租税法 [第24版]』(弘文堂)、『スタンダード所得税法 [第2版補正2版]』(弘文堂)、『所得税法 (基礎編) [令和4年度版]』(税務大学校)、伊藤義一『税法の読み方判例の見方 [改訂第3版]』(TKC出版)、中里実他編『租税判例百選 [第7版]』(有斐閣)</p>				
<p>参考書・参考文献・参考資料等</p> <p>『ポケット六法』(有斐閣)、注解所得税法研究会『注解 所得税法』(大蔵財務協会)、中里実ほか『租税法概説』(有斐閣)、金子宏ほか『税法入門』(有斐閣)、『税法用語辞典』(大蔵財務協会)、金子宏ほか『ケースブック租税法』(弘文堂)、川田剛『租税法入門』(大蔵財務協会)</p>				
<p>成績評価の方法・基準</p> <p>授業への取組状況 (事前・事後の学習状況、授業での発言等)、提出物等の結果を総合勘案して評価する。</p>				